

(様式3-2)

学 校 名：京都府立南陽高等学校
 校 長 名：阪梨 學
 所 在 地：京都府相楽郡木津町兜台6丁目2番地
 電 話 番 号：0774-72-8730
 研 究 担 当 者：澤井 洋一

都道府県名	京都府	番 号	26
教育委員会担当者名	大 島 浩 樹		

- イ 土曜日の活用
- ウ 教科のシラバス作り
- エ 教科指導法の研究（先進校視察及び予備校の授業研究等）

1 学校の概要

(1) 学校の特徴

本校は、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性と、世界的に視野を広げることにより国際性を身につけ、社会の発展に寄与することのできる生徒の育成を目指す。

普通科単独校として、学力伸張クラスを各学年3クラス設置している。徹底した学習指導と、きめ細かい進路指導によって、生徒、保護者、地域の期待や信頼に応えており、上級学校進学を主として目指す学校である。

(2) 学校概要

課 程	学 科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	409	10	442	11	414	11	1265	32
計		409	10	442	11	414	11	1265	32

(3) 学校の学習意欲・学力向上に関するこれまでの取組

- ア 3年間を見通した計画的な進路ホームルームの実施
- イ 進路目標に対応したガイダンス等の定期的な実施
- ウ 保護者に対する進路説明会や面談の充実
- エ 家庭学習の習慣化を図るために定期的な啓蒙活動の実施
- オ 明確な学力目標に基づく各教科の授業計画立案
- カ 模擬試験等による生徒の学力分析
- キ 知識の定着と家庭学習の習慣化を目標とした小テストの実施
- ク 平常授業時や長期休暇中の希望進路別講習の実施

(4) 教育課題

- ア 教員の意識改革と共通理解（進路、学年、教務、教科の連携等）

2 研究の概要

(1) 研究主題

生徒が自ら進路を切り開いていける意欲・態度を育成し、生徒一人一人が希望進路を達成するための指導システムの確立を図る。

(2) 研究のねらい

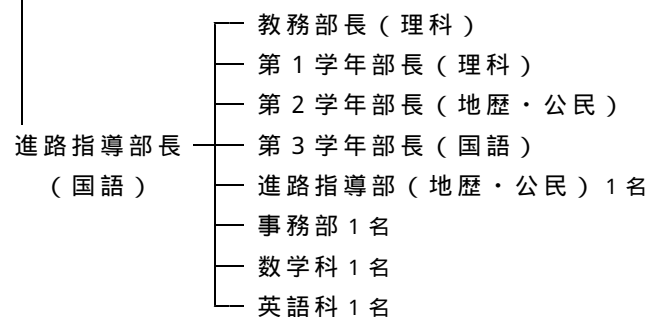
従来本校で行っていた学習意欲・学力向上策を再点検し、構成や配置等を見直して、研究対象の第1学年に対して3年間継続して検証する。そこから得られたデータを基にして新たな学習意欲・学力向上策を構築する。

(3) 研究組織

校 長

教 頭 — 事務部長

学力向上フロンティア会議



(4) 3年間の計画

平成15年度

ア 学習目標の明確化

学年、教科、進路指導部で学習目標の共有化を図り授業目標を立てる。

イ 学習の習慣化

平常の予・復習を大切にさせ、毎日の学習週間の定着を図る

ウ 課外授業の充実

進路希望の実現に向けて、7時間目授業、長期休業中の講習等を適切に配置する。

エ サポート体制作り

進路意識啓発のための進路ガイダンスの充実を図る。また、保護者に対しても進路講演会等で実情の理解に努めてもらう。

平成16年度

- ア 学習目標の確立
- イ 学習内容の充実
- ウ 高度な学力の伸長
- エ 進路目標の具現化

平成17年度

- ア 学習目標の完成
- イ 学習内容の発展
- ウ より専門的な学習指導
- エ 目標への到達

3 本年度の取組

(1) 研究の実際

学習目標の明確化

ア 定期的な進路希望調査の実施

生徒の進路希望を早期に把握し、よりの確かな指導を行うために、5月と9月に進路希望調査を実施した。

* 進路希望調査集計結果 (5月) (9月)

	第1回	第2回
4年制大学	73.4%	81.4%
短期大学	3.4%	2.7%
専門・各種	7.8%	8.3%
就職	2.0%	2.0%
未定	13.4%	5.6%

イ 学年部、教科、進路指導部による進路情報共有会議の実施

第1回 (類対象)

日時：平成15年6月16日実施
 内容：調査資料の分析、クラス状況の報告、教科年間計画の説明

第2回 (類対象)

日時：平成15年6月19日実施
 内容：調査資料の分析、クラス状況の報告、教科年間計画の説明

第3回

日時：平成15年9月17日実施
 内容：7月実施の実力テスト分析、夏季休業中の学習目標、学習課題の共有化

第4回

日時：平成15年12月8日実施
 内容：11月実施の実力テスト分析、冬季休業中の学習目標、学習課題の共有化

第5回

日時：平成16年2月18日実施
 内容：1月実施の実力テスト分析、明確化した課題に対する検討

ウ 学習目標の明確化を図るために第1学年対象に第2学年で進む類型別のガイダンスを実施

日時：平成16年3月11日実施
 内容：第2学年における類型別の学習目標や学習内容、進路先等について第3学年の担任から説明

学習の習慣化

- ア 毎時間の小テストの実施
- イ 定期的な自宅学習調査

5月と10月の定期考査終了直後の日曜日からの2週間調査を実施した。

* 自宅学習調査集計結果 (H14年度、H13年度)

第1回 [H15 6/1 ~ 6/14] 第2回 [H15 10/19 ~ 11/1]

類型	平均学習時間	類型	平均学習時間
	1.1 (1.0,1.0)		0.9 (0.7,0.8)
	1.8 (2.0,2.2)		1.8 (2.0,2.1)
9組	1.8 (2.0,2.0)	9組	1.8 (1.8,2.0)

ウ 3年間を見とおした計画的な実力テストの実施

- 5月 1日 学習状況調査 全員受験
- 7月 12日 記述実力テスト 267名
- 8月 24日 記述実力テスト 254名
- 11月 15日 記述実力テスト 270名
- 1月 24日 記述実力テスト 258名
- 3月 18日 学習状況調査 全員受験

エ 学習の習慣化を明確にシステム化している先進校への視察を実施

- 12月 1日 清水東高校、静岡高校
- 12月 2日 富士高校

課外授業の充実

ア 7時間目授業の実施

類

国、数、英の3教科を火、木、金の3日間、計12講座、全員必修で4/17より実施

類

国語(60名、2講座)、数学(84名、3講座)、英語(94名、3講座)、計8講座を希望登録制で5/12より実施

イ 長期休暇中の講習の実施

7時間目授業と同一講座で、夏季は前期8日、後期9日間、冬季は4日間実施。春季は5日間実施予定

サポート体制作り

ア 定期的な進路HRや進路講演会の実施

4月23日 「進路講演会」実施

- 5月 2日 「進路マップ」実施
- 5月 14日 進路HR「高校生活の充実」
- 6月 11日 進路HR「登録に備えて/自分を知らう」
- 6月 18日 進路HR「登録に備えて/学部学科の研究」
- 10月 22日 進路HR「評定平均・調査書について/模試の活用法」

イ 定期的な保護者向け進路講演会の実施

第1回

日時：平成15年5月27日実施
 内容：大学入試の現状と保護者の心構え
 卒業生の進路状況
 1年生の進路行事について

第2回

日時：平成15年10月15日実施
 内容：駿台予備学校の講師による講演
 「昨今の進路状況と保護者の心構え」
 進路指導部よりの説明
 1年生を取り巻く進路環境
 進路希望調査、自宅学習調査分析
 進研実力テスト7月の結果と分析

ウ 教科からのサポートを強化するために本校英語科教員対象の研修会を実施

日時：平成16年3月2日実施
 内容：駿台予備学校の講師による講義
 「センター試験等に対応する学力の育成」

4 研究に対する評価

(1) 研究の成果

学習目標の明確化、サポート体制作り

定期的な進路HRや進路講演会の実施により、進路希望の明確化が図られ、2回の進路希望調査を比較すると進路未定者の数値が激減した。(前記集計結果参照)

また、進路情報の共有会議を定例化したことにより担任の思いが教科担当や進路指導部に直接伝わり一層細やかな教科指導、進路指導を行うことができ教師間での学習目標の明確化が達成できた。

サポート体制作り

教科からのサポートの強化のため実施した研修会は大変好評であり授業の改善につながると確信できた。

アンケート抜粋

- ・今回の講義によって英語指導のあり方について継続していく点、改善すべき点が明確になった。
- ・授業改善のヒントをたくさん得られた。

- ・教科教育法の面で大変な刺激となった。
- ・学力向上のための授業には様々な要素が必要であることを痛感した。

(2) 問題点及び今後の課題

学習の習慣化

2回の自宅学習調査の結果を比較してみると明らかに10月の自宅学習時間が減少しており、家庭学習の定着化が進んでいないことが分かった。(前記集計結果参照)

課外授業の充実

現在最終調査中であるが、類の希望登録制の7時間目授業の受講率が下がっており、前述の自宅学習調査の結果と共に、生徒の学習意欲の低下が明確化した。

5 16年度以降の改善点

15年度実施した取組については16年度も継続して実施していく方針である。その中で、問題点として明確化してきた事情を改善していきたい。

自宅学習時間の減少に関しては、毎時間の小テスト、計画的に配置している実力テストの意味や効果について進路HR、進路ガイダンス等で一層丁寧に説明し、取組方法を改善させる。また、先進校の事例等も継続的に集め、家庭学習の定着化の方法を探る。

7時間目授業の受講率低下から分かる学習意欲の低下については、授業内容の改善を柱とし、生徒にとって必要かつ魅力のある授業作りを目指すため、教員対象の授業改善研修会の充実を図りたい。さらに、生徒の進路目標を一層明確化させるため、進路講演会の内容等を再度検討していき学習意欲の喚起を促したい。

[注] 第 類……普通科目の基本的事項を重視して学習する。

第 類……普通科目をより高度化させて学習する。

9 組……第 類選抜クラス